

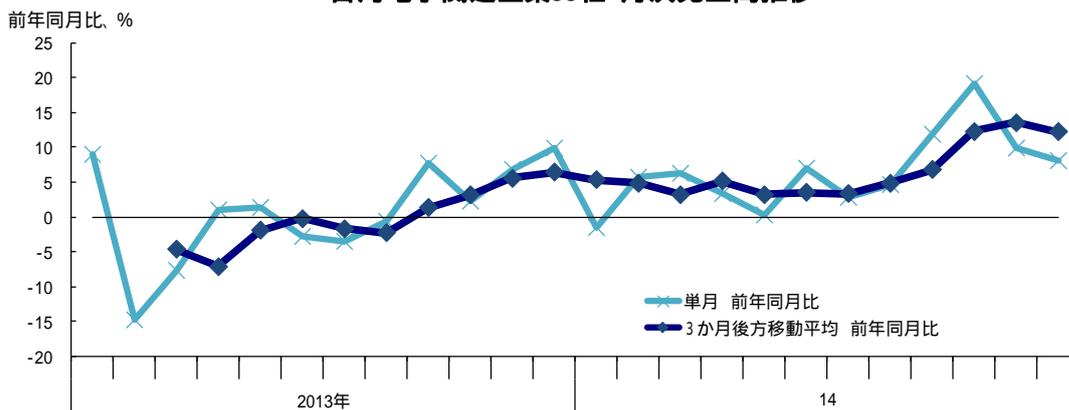
**台湾電子関連企業 月次売上高（2014年12月）**  
好調ながらも増勢には一服感

**12月売上高は前年同月比8.2%増と好調ながらも増勢には一服感**

- ・世界の電子部品・デバイス市場の先行指標となる台湾の主要電子関連企業55社の2014年12月の売上高は前年同月比8.2%増（前月比0.4%減）、3か月後方移動平均値では同12.2%増（同2.4%増）となり、引き続き好調な状況が続いている（図表1）
- ・ただし、iPhone向けの部品出荷がピークアウトしたことに加え、中国スマートフォンメーカー向けの部品出荷に一服感が出ている模様で、単月の売上高の増勢は弱まる傾向にある。以下、主要品目について動向を記載する。

図表1 売上高は高水準ながらも増勢は弱含む傾向

台湾電子関連企業55社 月次売上高推移



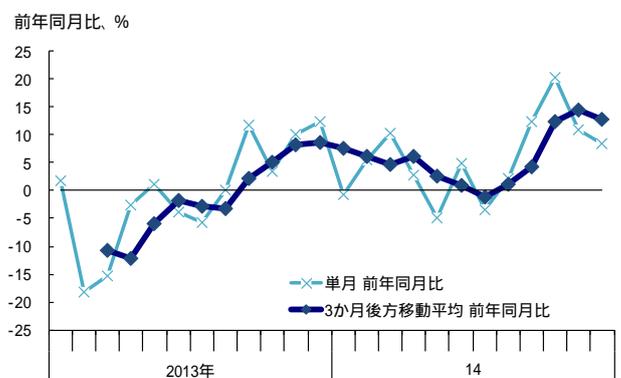
注: 台湾電子関連企業55社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している電子関連の代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出。  
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

**iPhone 6シリーズの製造にピークアウトの兆し**

- ・EMS (Electronics Manufacturing Service、電子機器の受託製造) 9社の12月の売上高は前年同月比8.4%増（前月比0.8%増）、3か月後方移動平均値が同12.8%増（同4.3%増）となった（図表2）。EMS全体の売上増をけん引しているのは、iPhone 6シリーズの組み立てを行っているホンハイとペガトロンである。ただし、2社の売上高の前年同月比の伸び率は、11月と比較して低下している。また、前月比でも、ホンハイはほぼ横ばい、ペガトロンは2か月連続の減少となっており、iPhone 6シリーズの製造にはピークア

図表2 EMSの増勢は弱含む

台湾EMS企業9社 月次売上高推移



注: 台湾EMS企業9社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出。  
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

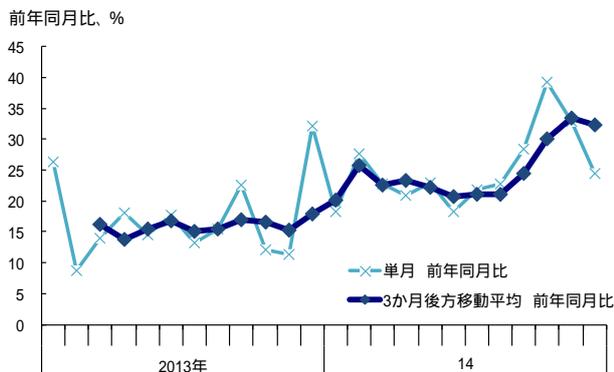
ウトの兆しが出ていると見られる。

### 半導体関連企業は iPhone 6 シリーズ向けと中国スマートフォン向けで一服感がでている

- 半導体関連企業 12 社の 12 月売上高は前年同月比 24.5%増（前月比 1.7%減）、3 か月後方移動平均値が同 32.2%増（同 1.9%減）となった（図表 3）。引き続き高い伸びとなったものの、単月の伸び率は低下した。詳細にみると、前工程 2 社の単月の売上高は、11 月の前年同月比 53.3%増から 12 月には同 37.1%増と伸び率が縮小した。また、メモリ 4 社の売上高は、11 月の同 5.1%増から 12 月には同 2.6%減とマイナスに転じた。増勢が鈍化している背景は、iPhone 6 シリーズ向け部品がピークアウトしていることによると考える。一方、後工程 3 社の売上高は、11 月、12 月とも同 13.7%増となり伸び率は変化していないが、前工程の増勢が鈍化していることを勘案すると、2015 年 1 月以降の伸び率は低下傾向を示すと考える。
- また、半導体関連企業のうち LSI 設計 3 社についても、中国スマートフォン向けに一服感が出ている模様で、その増勢が弱まる傾向にある。LSI 設計 3 社の 12 月の売上高は、前年同月比 26.3%増（前月比 0.7%減）、3 か月後方移動平均値が同 35.4%増（同 3.2%減）となった（図表 4）。

図表 3 半導体関連企業の伸び率は低下

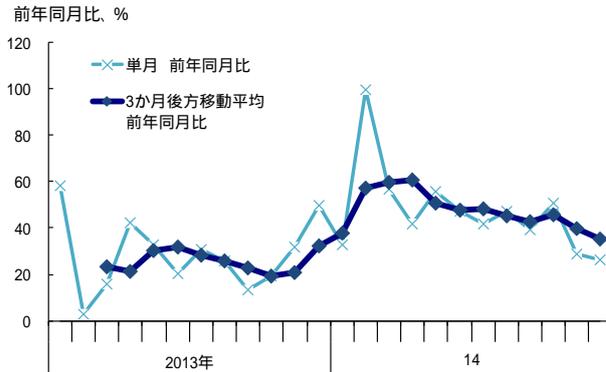
台湾半導体関連企業12社 月次売上高推移



注: 台湾半導体関連企業12社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を  
浜銀総合研究所が抽出。  
出所: Taiwan Stock Exchange,M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表 4 LSI 設計は中国向けに一服感

台湾LSI設計企業3社 月次売上高推移



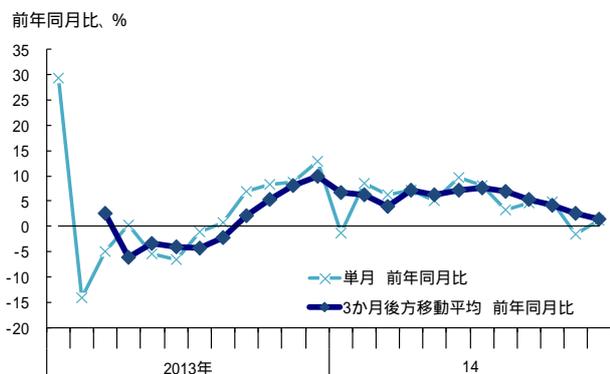
注: 台湾LSI設計企業3社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を  
浜銀総合研究所が抽出。  
出所: Taiwan Stock Exchange,M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

### 電子部品関連企業と光学部品関連企業の増勢も鈍化

- 電子部品関連企業や光学部品関連企業についても、売上高の増勢が鈍化する傾向にある。電子部品関連企業 12 社の 12 月の売上高は前年同月比 1.1%増（前月比 1.9%減）、3 か月後方移動平均値で同 1.4%増（同 0.3%減）となった（図表 5）。また、光学部品関連企業 6 社については、12 月の売上高が同 5.4%減（同横ばい）、3 か月後方移動平均値は同 2.4%増（同 2.3%増）となった（図表 6）。きょう体やカメラレンズなど、需給がタイトな部品については好調を維持しているが、全体的には iPhone 6 シリーズ向けがピークアウトしたことなどを背景に、弱含む展開となっている。

図表5 電子部品の増勢は弱含む傾向

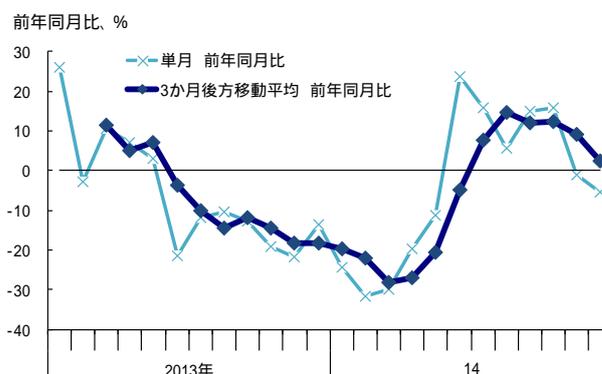
台湾電子部品関連企業12社 月次売上高推移



注: 台湾電子部品関連企業12社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を  
浜銀総合研究所が抽出。  
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表6 光学部品はマイナス幅が拡大

台湾光学部品関連企業6社 月次売上高推移



注: 台湾光学部品関連企業6社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を  
浜銀総合研究所が抽出。  
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

### 再び増勢が強まるのは3月以降と見込む

- 今後の世界の電子部品・デバイス市場については、iPhone 6シリーズ向けの出荷減速と中国スマートフォンメーカー向けの一服感を背景に、引き続き増勢が弱まる展開を予想する。再び増勢が強まるのは、中国の旧正月(2月18日~24日)が明けると見込まれることも、増勢の回復に寄与すると考える。なお、iPhone 6シリーズ向けのピークアウトは事前に想定されていたと推察され、大幅な在庫調整を懸念する必要はないと考えている。

担当：調査部 産業調査室 山鹿 亜紀子  
TEL 045-225-2375  
E-mail: [yamaga@yokohama-ri.co.jp](mailto:yamaga@yokohama-ri.co.jp)

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。